

「京都を学ぶセミナー南山城編」第2回（開催報告）

2019年6月28日
京都学・歴彩館
075-723-4835

2017年度から開始した「南山城の文化資源」研究プロジェクトの成果を分かりやすく解説する「京都を学ぶセミナー【南山城編】」第2回を、下記のとおり開催しましたので報告します。

記

- 日 時 2019年6月15日（土）13:30～15:00
- 会 場 京都学・歴彩館大ホール
- 参加者数 142名
- 内 容 講演 同志社女子大学現代社会学部教授 山田 邦和
「恭仁京のカタチー復元への試案一」

■ セミナーの様子と当日の参加者の声

京都の文化資源を発掘する研究プロジェクトの第3弾として2017年度より推進してきた南山城編も研究の最終年度を迎えた。今年度も毎月1回のペースでセミナーを開催していく。第2回セミナーは、京都学・歴彩館大ホールで開催した。

恭仁宮の構造については、発掘調査の蓄積によって大要が判明しつつある。しかし、恭仁京全体の都市構造は諸説あり、不明な部分も多い。本セミナーでは、これまで唱えられた恭仁京の様々な復元案が紹介され、また独自の山田説の試案が提示された。従来の恭仁京復元案は、平城京や平安京のような方形プランの都市であることを前提としてきた。しかし、山田説は都市の全体を方形でない自由な形であったと想定し、平城京型の方形プランではなく、不整形プランの都城であるとした。

参加者からも「諸説をまじえながら、山田先生の説が最も説得力を持っていると思いました」、「方形の都の固定観念を一旦すててみるおもしろさを知りました」、「恭仁京の新しい推測、実際お話を聞かせていただいて、本当ではないか。歴史はまだまだ新事実があり、変化発展する学問だと新たに思いました」など、多くの人々の関心を呼んだ。

講演自体も、「大変聞き取りやすく、内容も素人にもわかりやすく、大変良かったです」、「わかりやすい内容でとてもよかったです。山田先生の説は説得力のある説だと思った」、「とてもわかりやすく楽しく聞く事ができました」など大変好評であった。

